

#### 4. 食について

##### <食 物>

主食はキャッサバ(イモ)のウガリである。しかしながら、このキャッサバはバギギから入手している。時々野生のキャッサバを採集するのだが、数が少なく、まれにしか見つからないようだ。副食は獣肉である。また、この肉は大切な交易品にもなる。獣肉(アンティロープ・キゼブラ・ジェネットなど)以外には、ヘビも食べる。

その他に、アリやハチミツなどがあつた。



##### <ヘビを料理する>

(卵をとり出している)

〔アフリカ・ザイルから〕では、「シャバ州の人はヘビを食べない」と記述していたが、このバテンボは食べるようだ。

## <食 事>

食事の回数と時間は厳密には定まっていない。家族ごとで食事を作り、とるようだが、男性はハンティングに行ってしまう、一緒に食べることができない。また、ハンティング中はなにも食べないようだ。

## <調 理>

調理方法としては、焼く、煮る、くん製にする方法がある。くん製にするのは、保存食に用いるためやバギギとの交易品にするためである。

バテンボの社会には既に金属器(ナベなど)が入っており、それをたき火の上にのせて調理する。たき火の位置は毎日異なるので、「かまど」といった観念はない。そして、常に家の外で調理していた。

くん製にした肉も、煮てから食べている。くん製の方法が簡単であり、かつ、その肉を確保しておく適当な場所無く、ハエが多いため、肉の中からハエの幼虫(ウジ虫)が発生するからだ。我々もこのウジ虫には抵抗を覚えていた。

調味料としては、塩とピリピリ(トウガラシ)の2つがあった。両方ともバギギから手に入るようだ。

## <嗜好品>

バギギから入ってくるタバコ(の葉)とルトックという酒がある。タバコは女性も好み、みんなで回し吸いをしていた。ヒョウタンを利用した水タバコ(右図)もあったが、これは老人が好んでいるようだ。ルトックの味は、ビール味の焼ちゅうといったところだが、毎日飲んでいるわけではない。



## <肉食の規制>

バテンボの社会には、食べてはいけない肉がある。キソングとブッシュピッグの肉である。精霊の関係で、もし彼らが食べると病気になるか死ぬと信じられている。肉はバギギとの交易品だけに利用されているようだ。これは、トング族の「動物には不幸をもたらす動物霊(ソウ)や病気をもたらす動物(ダルマワシ)がいると信じられている。」(8)「民族の知恵①」)やブッシュマンが、人肉を食べるライオンやハイエナを決って食べないのに似ている。(参考「食事の文化」)

## 5. 住について

### <住居>

バテンボの家には、木を柱として草ぶきの屋根をもつものと、木と葉だけのものとがある。そして、草ぶきのものには家型と円錐型のものとがあった。

家の材質は丸木(生えている木を利用する場合もある)と木の皮(紐に使う)と草だけで、時々葉のついた小枝も使われる。

乾期においては、男の子は外で寝ている。夫婦や赤坊、女の子などは家の中で寝る。家の広さは大人2人が寝られる程度である。雨期は草の量を増し、男の子も家の中で寝るらしい。

寝ているメンバーに関しては、家族単位ではあるが、夫婦以外は男と女の間寝はしないようである。寝具は草やスカイ(動物の皮)を敷物にするだけである。朝方には10℃以下(8.5℃まで下がった)になるのに、なぜか、上半身は裸になって寝ている。貴重な服を焼かないためではなさそうである。なぜなら、服の無い子供もいるからだ。とにかく、彼らは星空の下で、たき火を囲んで丸くなっていた。